生涯学習の基本的な考え方

参考：広島県教育委員会

生涯学習の意義

１　教育改革を行うため【教育の改革原理としての生涯学習】

ー学校中心社会から生涯学習社会体系への改革ー

学校が青少年だけのものではなく、すべての教育機会をすべての世代で利用できる教育の仕組みを目指したものです。

２　政策課題を解決するため【政策課題の解決原理として生涯学習】

ー社会的課題の解決ー

環境・災害対策・青少年問題・まちづくり・ボランティア活動など、行政の啓発事業や現代的課題に取り組むために生涯学習に期待した事例はは多くあります。また、急速な技術革新に対応するための職業知識、技術の習得や資格取得など、職業教育としての面も持っています。

３　人々の学習需要に対応するため【学習の支援原理としての生涯学習】

ー学習需要への対応ー

- 社会変化への対応（パソコンが使えないと困る…）
- 自己実現への要望（自分探し・仲間探し・役割探し）
- 社会参加への要望（学習して身に着けたことを社会へ還元したい…）

生涯学習の効用

学習活動の成果は一義的には個人に帰するものですが、地域社会における効果もあります。

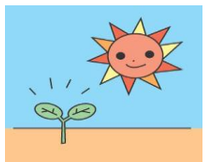
◇学習を通じての絆（仲間づくり）ができ、地域の連帯感が醸成される。

◇学習によって文化的、経済的な向上、地域の教育力の活性化などがもたらされる。

◇学習によって社会参加意識が高まり、ボランティア活動などが盛んになり行政経費の削減、その他の副次的効果を生む。

ボランティア活動の活発な地域は、犯罪発生率、失業率が低いと言われている。

（内閣府国民生活局調査「ソーシャルキャピタル豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて」）



一人一人が、自発的意思に基づき、必要に応じて、自己に適した手段・方法を選んで、生涯を通じて行うことが生涯学習活動の特性です。